



私のひとりごと

「親の通った道を・・・」

当社の事務所は、平成8年に現在の場所へ移転したが、それから早や16年の歳月が流れた。当時では珍しく奇抜な赤い建物である。たまたまその時期、建築中の家がピンク色の外壁に言うので、「じゃあ、私は赤にします」と、軽いノリで決めた色。ちなみにそのお客様の家は街中にある為、お隣さんのことも考え塗り替えることとなった。さて当社の事務所はと言うと、16年の歳月が経った今、さすがに汚れや傷みがかなり目立ってきた。そんなこともあり今年の春、「まずは外壁の塗り直しと床の張り替えをしようか」と、計画も半ばで事務所のリフォーム工事がスタートした。



リフォーム工事は一旦始まってしまうと、「ここが綺麗になるとあっちもやり替えたい。でも、一体どこまでやるの?」といった問題が必ず起こる。それを言い出すとキリが無いのはお客様の家で経験済みであるが、当社も決して例外ではなかった。床板を解体している途中で計画を練り直し、いつしか壁も天井もという具合に話は進み、結局、内外装全てをやり替えることとなった。特に我々の場合、各々が住宅に対するこだわりを強くもっているため、皆が納得するものをつくらうと思うと、決まるものもなかなか決まらない。その上、お客様宅の工事も行っているため、その僅かな空き時間での作業となる。8ヶ月経った今、ようやく内外装ともある程度の形になったが、未だ完成には至っていない。国道沿いのため人目に付くらしく、何人もの人が立ち寄り「まだ出来んのか～」と言われたり、時には「建築屋さん紹介してやるか～」と嫌味を言われることもあったが、今年中には何とか完成したいと密かに願っている。



さて、話はさかのぼりリフォーム工事の計画があがった頃、息子達は赤い外壁色を完全否定。真っ白に塗り替えたいと言う。気持ちは解らなくもないが、「そこまでやるの?」としばし迷い、結局妥協することにした。ところが事は、事務所前の木(ケヤキ)にも飛び火し、「イメージに合わないし、邪魔になるので切る。」と言いたい放題。だが私にはこの木に思い入れがあった。16年前、希望と不安の中で会社を法人化した際、私の背丈ほどのケヤキの木を3本植えた。これが思いのほか大きく育ち、今では6メートルを超えるほどに成長したのである。思い返せば、夏場には木陰でビールを飲んだり、また、若葉を身につけ生き生きと育つ姿に、勇気づけられた事もある。

また、話はさらにさかのぼり、まだ親父が生きていた頃。我が家には猫の額ほどの小さな庭があるが、そこへ所せましと庭木や盆栽を植えるのが親父の趣味であった。ただ、私にとっては邪魔になるだけなので、黙って切り捨てた事もあり、今にして思えば随分とひどい事をしたものだ。親父殿には今更ながら心よりお詫び申し上げます。

話しは戻り、先日話し合いの結果、1本のケヤキを残し、残りの2本を伐採する事になった。月日は流れ盆栽とケヤキの違いはあれど、良きに付け悪しきに付け、私が親父にした通りの道を、今度は同じ様にして息子達も歩んでいるのである・・・。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき・・・、

あーがしう
ございました!!

